

平成 29 年度 MieMu の活動と運営の全体の内部評価の概要

計画期間（3 年）：平成 29 年度～平成 31 年度

内部評価結果（概要）

- ・自然から歴史など総合博物館として様々なテーマで三重を取り上げた展覧会を計 10 本（企画展・交流展・トピック展）開催することで、リピーターを確保することができた。また、高校生以下の観覧者は 74,261 人と観覧者全体の 48% を占めるとともに、こども体験展示室の利用も入館者全体の 33% にのびた。広報や多様な主体との連携にも、引き続き積極的に取り組むことができた。また、調査研究については総合研究のあり方を見直し、当館の実情に沿った形で参加型調査に取り組むことができた。日常的なレファレンス対応をはじめ、学校や教育委員会との連携を進め、利用者の学びの場として当館を活用いただくことができた。
- ・一方で、展覧会の数は依然として多く、多くの経営資源を配分せざるを得ない結果となった。例えば、夏ののりもの展は県内交通事業各社との連携に取り組み、開館以来最多の観覧者数（42,981 人）となったが、連携にあたっての交渉・調整のほか、多数のイベント開催に人員と時間を割く結果となった。集客を意識しながらも、省力化できる部分を見つけてバックヤード業務（資料整理、調査研究）の人員・時間を確保しなければならない。また、組織を改めて 3 課（経営戦略広報課、展示・交流事業課、調査・資料情報課）の体制とし、業務分担の明確化・円滑化に努めた。スケジュール管理の徹底や展覧会チームの運用などにより、引き続き効率的な運営に向けた努力が必要である。
- ・館内で業務の見直しを行い、レファレンスカウンターの運用方法を変更して他の業務にあてる時間を増やすなど、すでに平成 30 年度改善を行っている部分もある。定期的に戦略・戦術を見直す機会を設けることで、当評価制度を活用した運営を進めていきたい。